

中央区内景气动向调查

令和6年12月调查结果

令和7年1月30日

中央区

総 括

令和6年12月の動き

中央区内における12月の現状判断DIは合計で54.0と、前回調査から0.1ポイント上昇している。景気の先行き判断DIは合計で51.7と、前回調査と変わらず横ばいである。

図表 景気の現状判断DI、先行き判断DI（合計）

(DI)	令和6年			前回調査 からの変化
	8月	10月	12月	
合計				
現状判断DI	54.4	53.9	54.0	(0.1)
先行き判断DI	58.9	51.7	51.7	(0.0)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、令和6年12月調査の調査票発送は12月6日（金）、回答期限は12月17日（火）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は44名、有効回答率は88.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で54.0と、前回調査から0.1ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは56.6と、前回調査から1.6ポイント上昇し、企業動向関連DIは52.0と、前回調査から1.0ポイント低下している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が10.3ポイント減少し、「やや良くなっている」と回答した人の割合が5.2ポイント増加した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

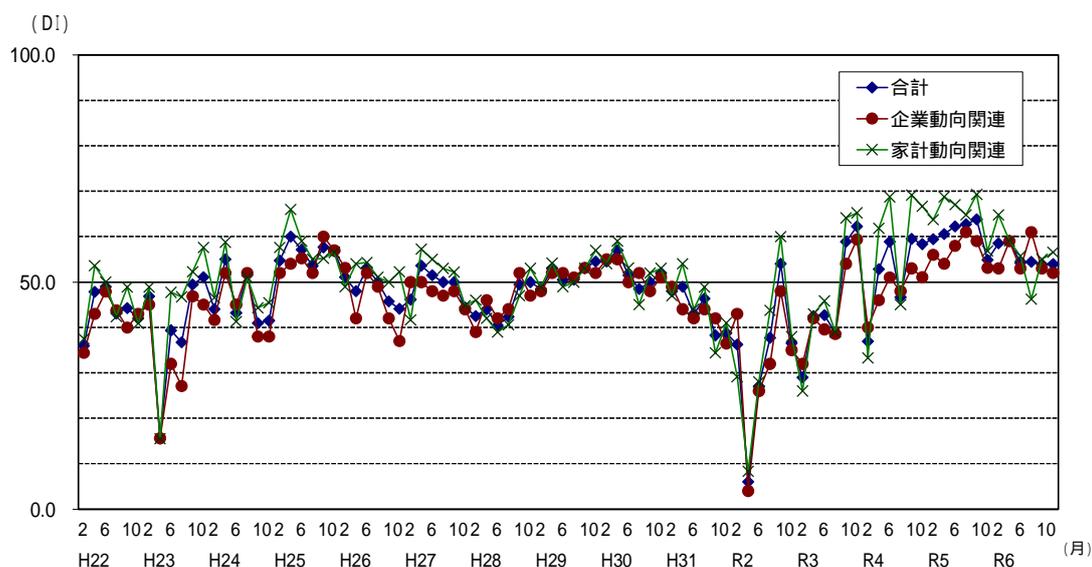
(DI)	令和6年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	54.4	53.9	54.0	(0.1)
家計動向関連	46.3	55.0	56.6	(1.6)
小売関連	55.0	50.0	57.5	(7.5)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	50.0	58.3	45.0	(-13.3)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	61.0	53.0	52.0	(-1.0)
製造業	50.0	50.0	45.0	(-5.0)
非製造業	63.8	53.8	53.8	(0.0)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
令和6年	8	11.1%	24.4%	42.2%	15.6%	6.7%
	10	4.4%	28.9%	46.7%	17.8%	2.2%
	12	4.5%	34.1%	36.4%	22.7%	2.3%
(変化幅)		(0.1)	(5.2)	(-10.3)	(4.9)	(0.1)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で51.7と、前回調査と変わらず横ばいである。分野別にみると、家計動向関連DIは53.9と、前回調査から3.6ポイント低下し、企業動向関連DIは50.0と、前回調査から3.0ポイント上昇している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が12.5ポイント増加し、「やや悪くなる」と回答した人の割合が10.9ポイント減少した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

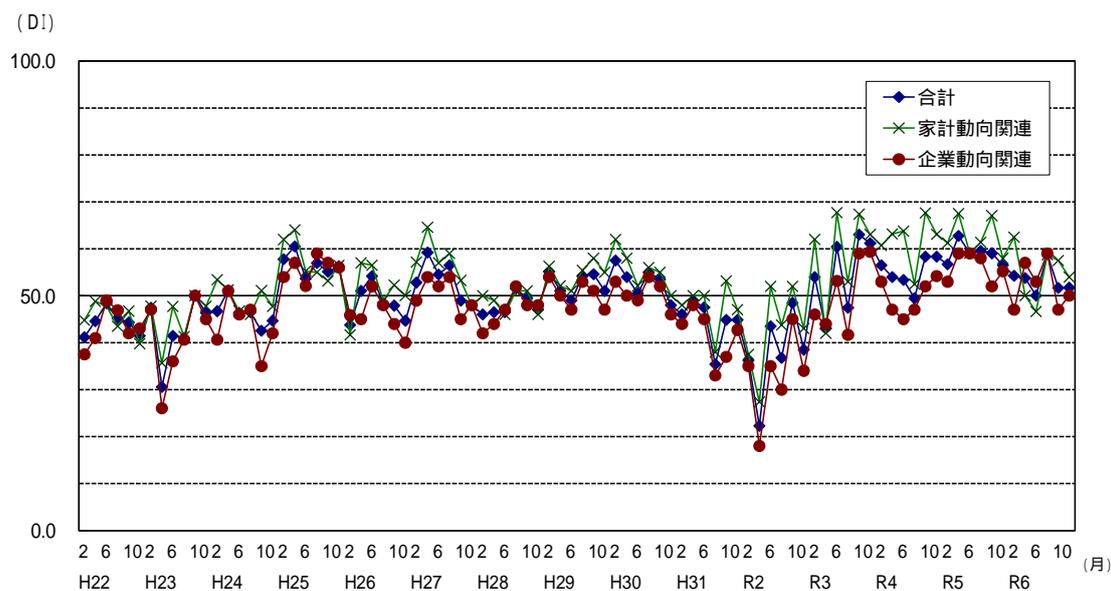
(DI)	令和6年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	58.9	51.7	51.7	(0.0)
家計動向関連	58.8	57.5	53.9	(-3.6)
小売関連	55.0	50.0	52.5	(2.5)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	50.0	54.2	60.0	(5.8)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	59.0	47.0	50.0	(3.0)
製造業	45.0	45.0	40.0	(-5.0)
非製造業	62.5	47.5	52.5	(5.0)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和6年	8	6.7%	33.3%	48.9%	11.1%	0.0%
	10	4.4%	22.2%	51.1%	20.0%	2.2%
	12	2.3%	20.5%	63.6%	9.1%	4.5%
(変化幅)		(-2.1)	(-1.7)	(12.5)	(-10.9)	(2.3)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

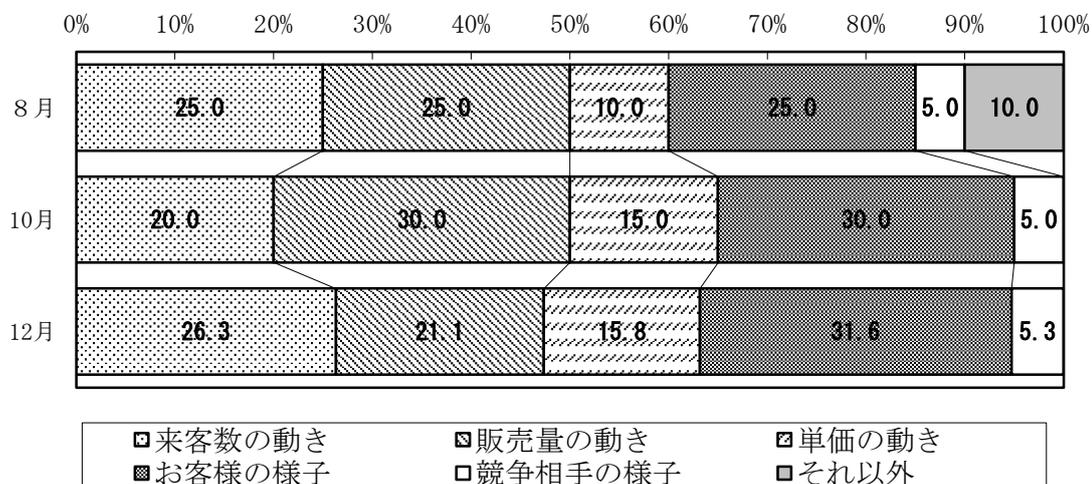
(D I)	令和6年		
	8月	10月	12月
合計	52.8	54.4	54.5
家計動向関連	52.5	60.0	60.5
小売関連	62.5	65.0	65.0
飲食関連	-	-	-
サービス関連	58.3	62.5	55.0
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	53.0	50.0	50.0
製造業	50.0	45.0	40.0
非製造業	53.8	51.3	52.5

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

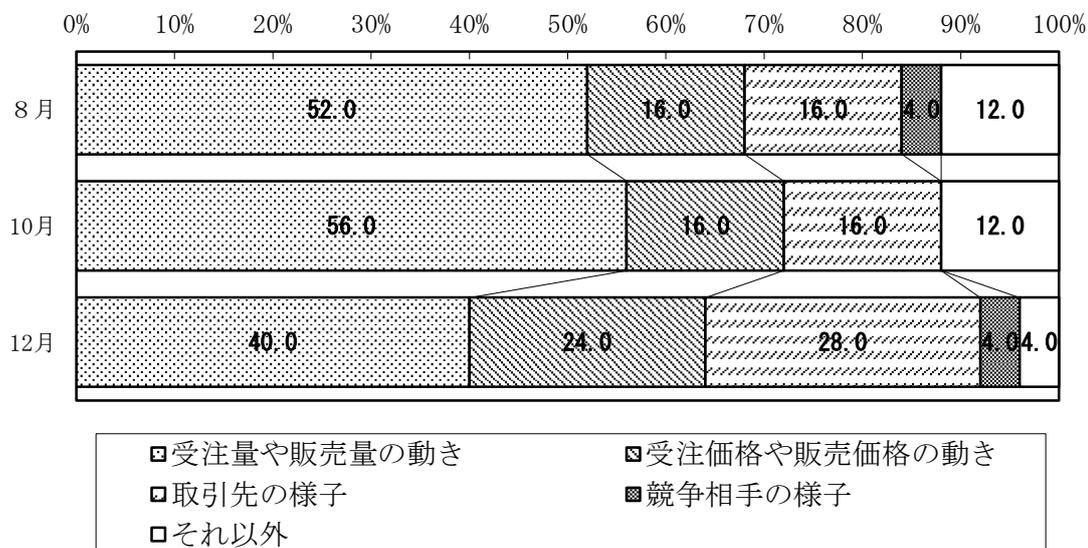
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・年末に当たり、忘年会などの予約が200%近く入り、売上は増加している。その反面、20時以降のフリー客は減少傾向にあり、閉店時間も早まりつつある。
	やや良くなっている	百貨店(総務担当)	来客数の動き	・円安の動向を受けて引き続き堅調なインバウンドに対して、各種の値上げ等の影響で消費マインドが低迷していた国内客が、気温の低下等により復調してきている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・インバウンドの伸び率は落ち着きつつあるものの、前年比150%と引き続き好調である。ただし、暖冬の影響もあり、クリスマス商戦は盛り上がりには欠けている。
		乗用車販売店(店長)	来客数の動き	・直近1年程は諸事情により宣伝広告活動を自粛していたが、11月中旬から再開したことにより、来店客や電話での問合せ等が増えている。ただし、法規対応によるオーダーストップが続いていたため、大幅な受注増加には結び付いていない。
		一般レストラン(経営者)	販売量の動き	・春頃に比べてインバウンドが少し減っているように見受けられる。アジア方面、特に中国人客が少なくなったような気がする。
		都市型ホテル(経営者)	単価の動き	・インバウンドを含む都内の宿泊客増加により客室が不足しているため、単価が上昇傾向にある。
	変わらない	一般小売店[事務用品](営業担当)	販売量の動き	・夏のような暑さから急に冬に入った頃から、10%程度プラスの動きがある。
		一般小売店[文具](販売担当)	お客様の様子	・単価の動きは良い状態のままで変わらない。インバウンドの増加により来店買上率が上昇し、客単価も上がっている。
		一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・観光客に加え、一般客も少なくなっている。
		旅行代理店(店長)	販売量の動き	・来客数、販売額に大きな変動はない。
	やや悪くなっている	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・11月以降も暖かい日が続き、冬物衣料の動きが悪い。ギフト需要も低調で、前年実績を下回っている。ブランド品や美術品等、高額品の動きがまだあるものの、総じて物価高の影響が感じられる。
		理容室(経営者)	お客様の様子	・年末の活気が余りない。
	悪くなっている	-	-	-
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	印刷業・製本業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・同業種の中でも、好調な会社と低迷している会社とに2極化している。
		建設業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量が増加してきている。
		輸送業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・取引先との値上げ交渉が順調である。
		不動産業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・大手仲介会社のデータでも、区内のオフィスビルの空室率は低下傾向にあり、坪単価の上昇傾向が継続している。
		卸売業[機械器具](営業担当)	取引先の様子	・受注のタイミングがずれたこともあり、少し今月に集中している。
		その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比較すると受注価格はやや高い程度ではあるものの、予算比では約30%強増えている。
		その他サービス業[ビルメンテナンス](管理担当)	受注価格や販売価格の動き	・工事価格が10~20%程度上昇している。
	変わらない	新聞業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・国政選挙など突発的な要因がない限り、受注の変動率に大きな増減はない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・月刊誌が隔月刊誌に、季刊誌が年2回の不定期誌になり、それに伴って発行部数が減り、実売部数も同様に落ちており、紙媒体はますます減少傾向にある。当然、スポンサーは雑誌への広告を控えている。	
		通信業（営業担当）	競争相手の様子	・提案を受けてくれるユーザーは増えたが、予算がないために決定までかなり時間の掛かる案件が増えている。	
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末でも特に変わらない。	
	やや悪くなっている		出版業（経営者）	それ以外	・物価高により、あらゆる生活局面で節約志向が浸透しつつある。
			印刷業・製本業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原材料、資材等の値上げがまた増えてきている。
			通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先で廃業する企業がある。
			経営コンサルタント	取引先の様子	・寒くなってきたためか、人通りが減り、物価の上昇、先行き不安により消費が落ちている。
			その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年末年始の商材について、現状維持又は取り止めという取引先が割合多い。
	悪くなっている				

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	都市型ホテル(営業担当)	・年末年始のインバウンド需要がある。
	やや良くなる	一般小売店[文具](販売担当)	・年末商戦に入り、国内客が増加傾向にある。インバウンドも増加している。
		百貨店(広報担当)	・米国大統領交代に伴う経済リスクは生じるものの、個人消費に対するマインドは引き続き回復基調にある。
		乗用車販売店(店長)	・業界でも値上げが続くなか、他社と比較して割安感がある当社は、生活必需品として車が必要な客から支持される商材がそろっている。
		一般レストラン(経営者)	・前年から今年にかけて訪れているインバウンド客がいつまでも来るとは思えない。内需の拡大を願いたい。
	変わらない	一般小売店[事務用品](営業担当)	・良くなったり悪くなったりを繰り返しており、結局は余り変わっていない。値上げで単価が上がれば売上が減少し、売上が上がれば税金が増えるということを繰り返している。
		百貨店(総務担当)	・今後2~3か月においても、堅調なインバウンドに加え、復調傾向にある国内客の年末年始における好調が継続すると予想される。
		コンビニ(店長)	・インバウンド効果やボーナス支給月での飲み会需要の増加など、一時的にやや良い傾向はあるものの、コストパフォーマンスに対する厳しい目は続いており、何ともいえない。
		衣料品専門店(店長)	・商品単価の上昇に加え、割引しない傾向になってきているため、現状維持が精一杯である。
		高級レストラン(経営者)	・予約数は減少するものの、結果として80%以上は見込める。高額メニューの予約は減少している。
		一般レストラン(経営者)	・観光客や一般客が少なくなっている。
		都市型ホテル(経営者)	・今の景気がかなり良いため、これ以上は上向きにならない。
		旅行代理店(店長)	・円安や物価高が引き続き販売額や来客数に影響すると予想されるが、大幅な変動はないと見込んでいる。
		競馬場(職員)	・物価が上がり過ぎている。
		理容室(経営者)	・理容業界では顕著だが、国内消費者がお金を使わなくなってきた。
	やや悪くなる	一般小売店[和菓子](経営者)	・原材料費が上がっていることに加え、物価の上昇が止まらず、販売量は伸びていないため、良くならない。
		百貨店(総務担当)	・引き続き多方面で物価上昇が続くとみられ、若干の賃金上昇程度で消費につながるとはなかなか考えられない。身近な支出を引き締め貯蓄する傾向は更に強まるのではないかと。
		高級レストラン(副店長)	・2月は宴会が減る時期なので、3~4月に期待したい。
	悪くなる	-	-
企業動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・例年、年度末に近づくにつれて仕事量が増えるため、業績が上がってくるが見込める。
		建設業(営業担当)	・今後も物件が多く、受注量が増加する。
		不動産業(企画担当)	・マンションの販売は好調である。一部の物件では説明会の予約も取れない状況が続いている。
		卸売業[機械器具](営業担当)	・プレゼンでの結果が良く、年度末納入の受注が増えている。
		その他サービス業[ビルメンテナンス](管理担当)	・来年度の定例の契約について、多くの現場で値上げが承認されている。
	変わらない	出版業(営業担当)	・相変わらず物価の上昇が続いており、家計の苦しい状況は良くならない。これから国内外がどう変わっていくのかわからない。期待はできない。
		建設業(経営者)	・人手不足が受注の妨げになっており、業務量の増加は考えられない。
		建設業(経営者)	・仕事はあるが、人手不足のため受注を控えなければならない。
		輸送業(従業員)	・賃金の上昇が見込めない。物価上昇やガソリン価格の高騰で生活費が厳しい。
		通信業(営業担当)	・良くなる材料が見当たらない。
		通信業(営業担当)	・物価の上昇が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業〔証券〕（営業担当）	・企業業績についてはそこそこの推移がみられ、またボーナス等の支給状況も決して悪いイメージはないが、消費財価格の上昇はかなり景況を圧迫するように見受けられる。なお、金利、為替等についても方向性が見えにくく、当面は現状が続く。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・売上が増える一方、数量は減少している。物価上昇についていけない層が増えているようである。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経理担当）	・特別大きな要因は思い浮かばない。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・場外市場は今がピークである。外国人旅行者が多いが、いつかは落ち着いてくる。オーバーツーリズム傾向もある。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・一部の取引先の話では、先行きは上昇する可能性があるということだが分からない。
		卸売業〔機械器具〕（支社長）	・コストが高止まりし、利益率が悪化している。2024年問題の影響が出始めている。
		経営コンサルタント	・税金の問題や、物価がどこまで上昇するか見通しが立たないため、しばらくは様子見である。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・今月もやや高い水準を保っているため、現状維持できると見込んでいる。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・上向きになるような要因が余り見当たらない。
	やや悪くなる	新聞業（営業担当）	・来月からの値上げラッシュの影響で、消費がある程度抑制されるのではないかと。
	悪くなる	出版業（経営者）	・財布のひもの引き締め、インターネット通販の拡大は、全国的に商店街を沈みこませつつある。
		建設業（営業担当）	・受注が伸びない。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)	
合計		50	
家計動向関連	小売関連	15	
	商店街・一般小売店	5	
	商店街代表者	0	
	一般小売店経営者・店員	5	
	百貨店	4	
	百貨店売場主任・担当者	4	
	スーパー	2	
	スーパー店長・店員	2	
	コンビニエンスストア	1	
	コンビニエリア担当・店長	1	
	衣料品専門店	2	
	衣料品専門店経営者・店員	2	
	家電量販店	0	
	家電量販店経営者・店員	0	
	乗用車・自動車備品販売店	1	
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	1	
	その他小売店	0	
	住関連専門店経営者・店員	0	
	その他専門店経営者・店員	0	
	その他小売の動向を把握できる者	0	
	飲食関連	4	
	高級レストラン経営者・スタッフ	2	
	一般レストラン経営者・スタッフ	2	
	スナック経営者	0	
	その他飲食の動向を把握できる者	0	
	サービス関連	6	
	旅行・交通関連	3	
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0	
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2	
	旅行代理店経営者・従業員	1	
	タクシー運転手	0	
	通信会社	1	
	通信会社社員	1	
	レジャー施設関連	1	
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0	
	ゴルフ場経営者・従業員	0	
	パチンコ店経営者・従業員	0	
	競輪・競馬・競艇場職員	1	
	その他レジャー施設職員	0	
	その他サービス	1	
	美容室経営者・従業員	1	
	その他サービスの動向を把握できる者	0	
	住宅関連	0	
	設計事務所所長・職員	0	
	住宅販売会社経営者・従業員	0	
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0	
	その他家計の動向を把握できる者	0	
	企業動向関連	農林水産業従業者	0
		鉱業経営者・従業員	0
		製造業経営者・従業員	5
食料品製造業		0	
繊維工業		0	
家具及び木材木製品製造業		0	
パルプ・紙・紙加工品製造業		0	
出版・印刷・同関連産業		5	
新聞業		1	
出版業		2	
印刷業・製本業		2	
その他出版・印刷・同関連産業		0	
化学工業		0	
石油製品・石炭製品製造業		0	
プラスチック製品製造業		0	
窯業・土石製品製造業		0	
鉄鋼業		0	
非鉄金属製造業		0	
金属製品製造業		0	
一般機械器具製造業		0	
電気機械器具製造業(精密機械を含む)		0	
輸送用機械器具製造業		0	
その他製造業		0	
非製造業経営者・従業員		20	
建設業		4	
輸送業		1	
通信業		2	
金融業		2	
不動産業		1	
卸売業		6	
繊維・衣服等		2	
飲食物品		1	
建築材料・鉱物・金属材料等		0	
機械器具	3		
その他卸売業	0		
サービス業	4		
広告代理店・新聞販売店[広告]	0		
司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1		
コピーサービス業	0		
その他サービス業	3		
その他非製造業	0		
その他企業の動向を把握できる者	0		